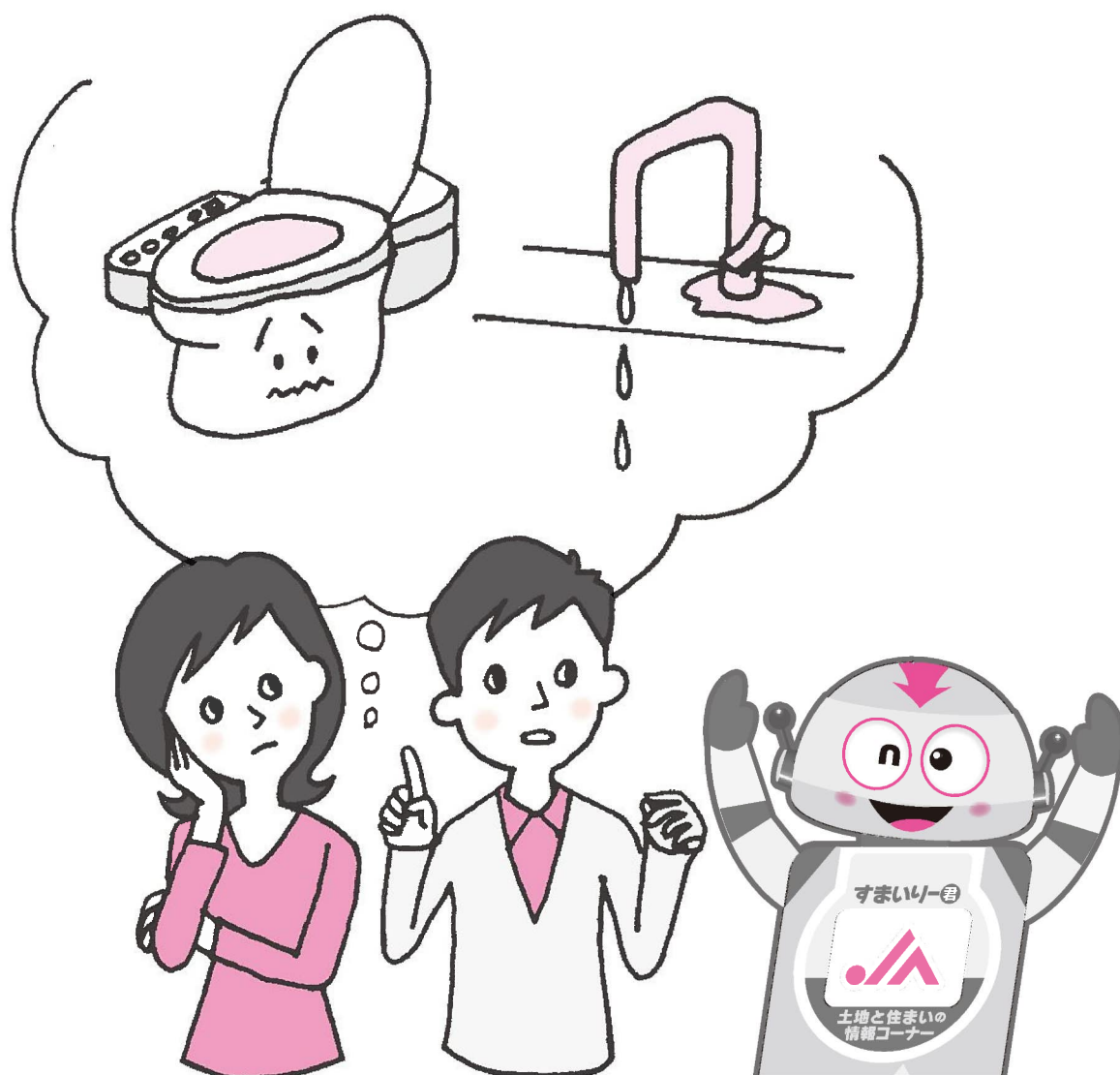


各設備の使用方法和注意点

入居者の皆様が快適に生活していただくために、各設備の使用方法を確認していただき、正しくお使いください。

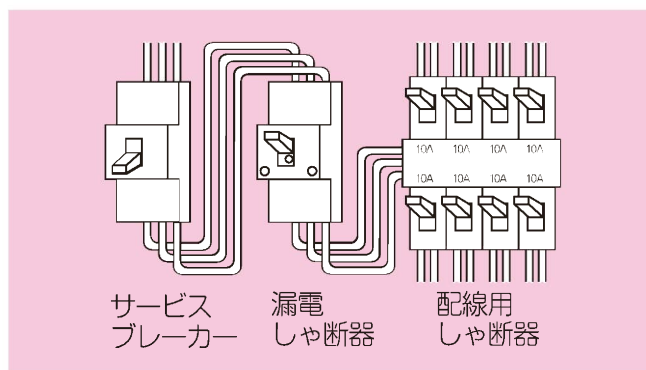
各設備で何かトラブルが起こった場合、すぐにJAみどり不動産部までご連絡をお願いします。



住宅の契約アンペアは基本的には**30A**です（一部20Aの物件もあります）。より高いアンペアで契約を変更することも可能ですが、その分基本料金も高くなりますし、ご退居の際には、元にもどしていただくことになります。また、建物全体で契約の容量が決まっていますので、ご希望のアンペアに契約変更ができない建物もあります。
 （アンペア変更される方は、巻末の「変更届」をJAみどりへ提出してください）

配電盤

配電盤には安全ブレーカーが組み込まれており、一回路当たりの最大使用可能容量を超える電気が流れた場合、自動的に回路を遮断する機能をもっています。
 停電を防ぐためにも下の表をご参考に最大使用可能容量を超えないように各製品をご使用ください。



電化製品のワット数(最大値の参考)

1A=100W

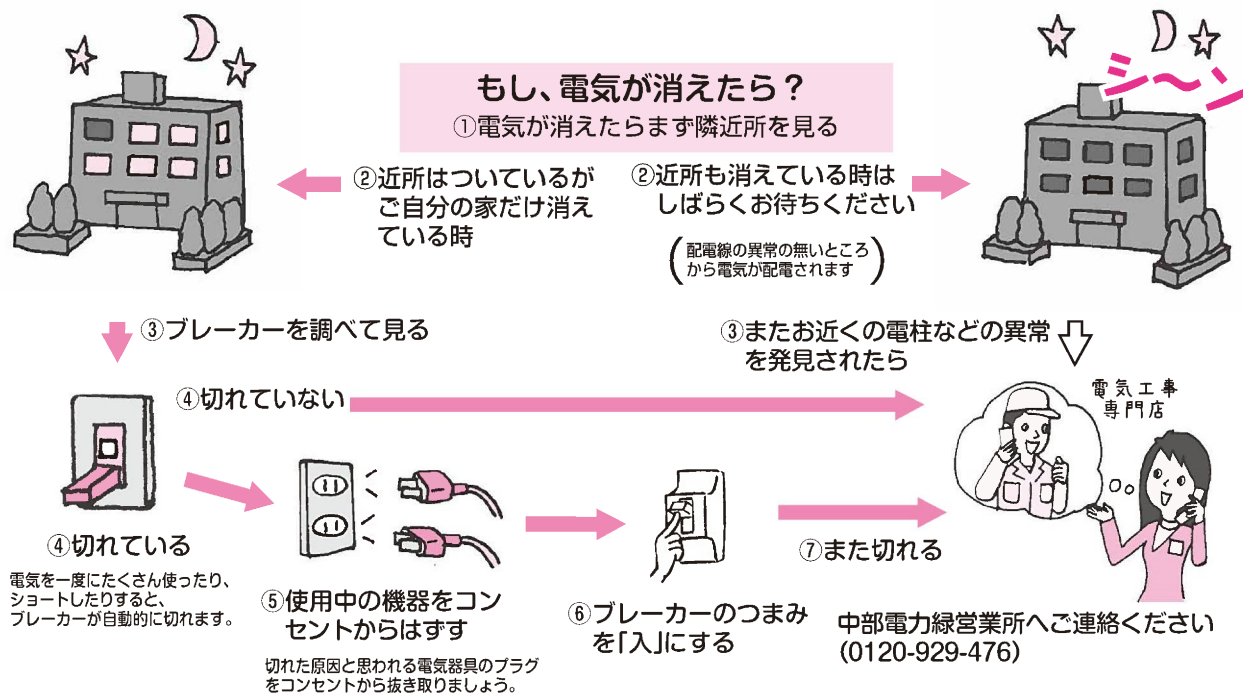
ドライヤー	700~1200W	こたつ	1500W	電気ポット	700W
アイロン	600W	テレビ	150~200W	電子レンジ	1000W
掃除機	700~1200W	電気カーペット	650W	エアコン	1200~1500W

各設備の使用方法

電気

停電について

ブレーカーが切れることが度重なるときは、漏電していることがありますので中部電力(0120-929-476)へ連絡してください。



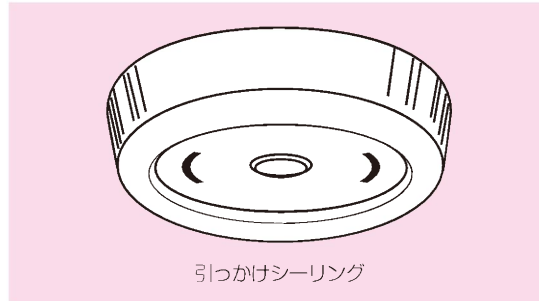
ブレーカーが切れた場合は、すぐに入れずに容量を超えた電気器具の使用をやめてください。
 故障を直してからブレーカーの紐を引いて通電してください。
 台風などで共用部の漏電ブレーカーが切れることもあります。

■照明器具

DKや居間には照明器具はついていません。引っかけ式のコンセント(引っかけシーリング)になっていますので、それに合う照明器具をご用意ください。

※ワット数600W以内、重量5kg以内のもの。

上記以外の器具の場合、使用開始前には中部電力に連絡し、手続きをしてください。



引っかけシーリング

■専用回路使用電化製品：エアコン、電子レンジ

専用の分岐回路から電気を取るようになっています。

これらの家電製品の設置費用は入居者さんの負担となります。配線増設、コンセント取り替えなど設備変更の場合には退居時には必ず元にもどしてください。

エアコン用のスリーブキャップは退居時に元にもどしていただきますので、無くさずに気をつけてください。

■テレビアンテナ

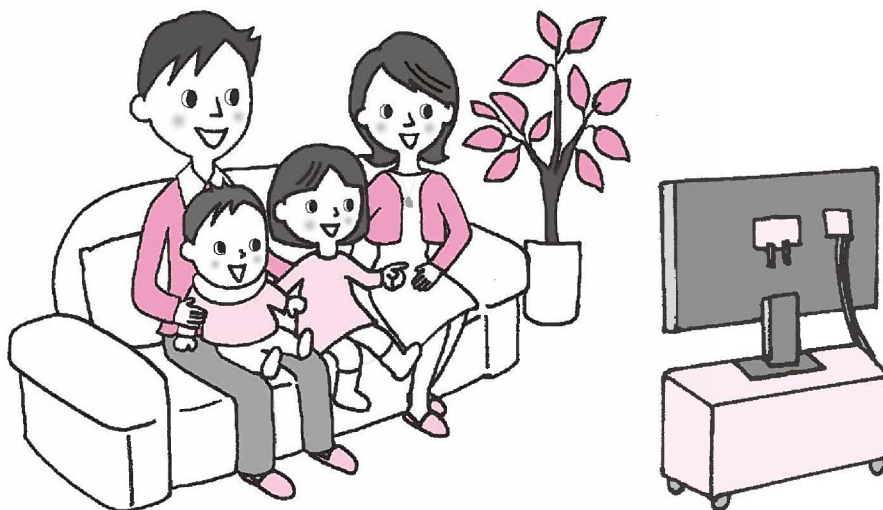
戸別アンテナや衛星テレビアンテナが必要となった場合、**JAみどりに変更届を提出し許可を取ってください。**(ベランダの内側で据置式のもののみは許可しますが、それ以外は設置できません。)

また、無線などのアンテナ設置はテレビ共聴に害が出る可能性がありますのでやめてください。

※場所により電波が非常に不安定になる場合がございます。受信状態が悪化した場合には、部品の取り替えなどにより修理改善を行いますが、完全に良好な状態に回復できないことがあります。

※一部の住宅にはCATVが導入されています。該当する住宅は契約の際詳しく説明いたします。

中部ケーブルネットワーク TEL 0120-441-061



■住宅用火災警報器

各お部屋には、初期火災の煙を感知して警報音で知らせる住宅用火災警報器が設置されています。
 万一火災が発生した場合には、状況に応じて119番へ通報したり、火元を確認して落ち着いて避難をしていただくなど、適切な処置をしてください。



■警報発生の場合

状態	警報音
火災時(火災警報)	「ビュービュービュー、火事です。火事です。」
警報器の故障時(故障警報)	「ピッピッピッ、故障です。」 「ピッピッピッ」
電池の電圧低下時(電池切れ警報)	「ピッ、電池切れです。」 「ピッ」

※多量のガスが発生する殺虫剤などを使用すると、煙を感知し火災警報音が鳴る場合があります。これらを使用する場合には必ず警報器を取り外し、丈夫なポリ袋などに入れ、煙が入らないようにしてからご使用ください。

■警報音を停止する場合

操作内容	警報音
火災警報時にボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピー、警報を停止します。」
火災警報停止中にボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピー、警報を停止中です。」
故障警報時にボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピッピッピッ、故障です。12時間警報を停止します。」
故障警報停止中にボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピッピッピッ、故障です。警報を停止中です。」
電池切れ警報時にボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピッ、電池切れです。12時間警報を停止します。」
電池切れ警報停止中にボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピッ、電池切れです。警報を停止中です。」

※故障や電池切れの警報音が鳴った場合、JAみどり不動産部までご連絡いただくようお願いいたします。

各設備の使用法

火災警報器

■電源を ON する場合

※1:オプション

操作内容	警報音
電池のコネクタを差し込む。 (警報器の電源を投入)	「ピポッ」

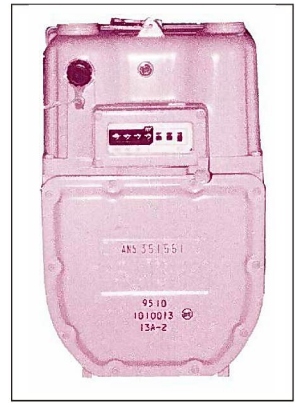
■テストをする場合

操作内容	警報音
ボタンを押す、または引きひも(※1)を引く。	「ピピッ」 「ビュービュービュー、火事です。火事です。」

※1:オプション

■マイコンメーター

マイコンメーターとは、従来のガスメーターに、マイコン・しゃ断弁・感震器・圧カスイッチを組み込んだものです。この各種センサーが異常をキャッチすると、マイコンがしゃ断弁を作動させ、ガスをしゃ断します。



マイコンメーターの動き



警報表示 (ランプ点滅) **警報表示 (ランプ点滅) としゃ断**

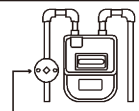
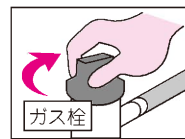
- 長時間口火をつければなしにしていた場合は、ガス漏れを検査する機能があります。ガス機器をお使いにならない時は、口火を消してください。なお、警報表示の点滅が消えない時は、東邦ガス(☎021-7141)へご連絡ください。
- ガス栓の誤開放やゴム管のはずれなど、異常に多量のガスが流れたとき、すみやかにガスをしゃ断します。
- 消し忘れなどで、ガスを異常に長い時間使用しつづけるとガスをしゃ断します。
- 振動やショックを与えますと、感震器がはたらいてしゃ断する場合があります。異常な振動やショックを与えないようにご注意ください。
- 復帰ボタンを押した後、3分以内に再びしゃ断する場合には、ガス栓が開いている可能性があります。開いていたガス栓を閉め、もう一度復帰操作をしてください。
- ガステーブルの立ち消えのように、小流量のガス漏れの場合には長時間経過しないとガスをしゃ断しません。ガス機器のご使用時には、従来どおりご注意ください。

各設備の使用

マイコンメーター

復帰の方法

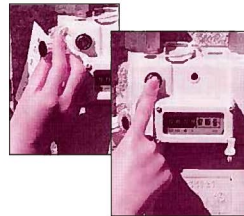
1 お部屋のガス栓、口火等をすべて閉めてください。



注・メーター入側のコックは閉めないでください。

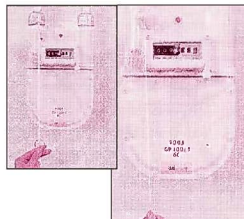
2 復帰ボタンの場合

キャップを外し、復帰ボタンをゆっくり押し込み、すぐ手を離してください。(復帰ボタンが戻りランプが点滅します。)



2 復帰レバーの場合

復帰用のヒモをゆっくり引き下げすぐ手を離してください。(復帰レバーが戻り、ランプが点滅します。)



3 手を離して約3分ほどお待ちください。マイコンがガスの安全を確認中です。

ランプの点滅が消えるとガスが使えます。

操作が終わったら必ず元どおりキャップをしてください。

■ガス警報器 ⚠️ 危険

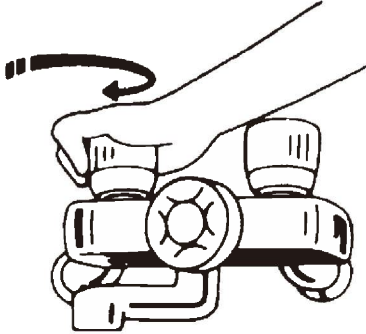
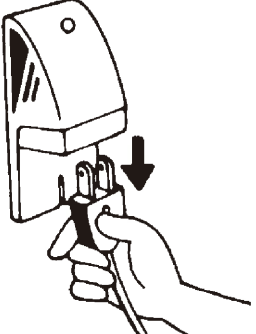
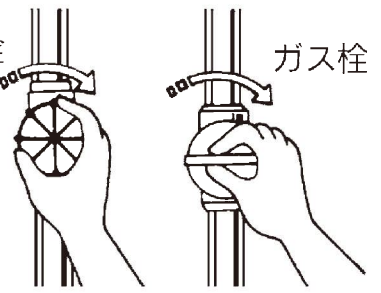

お部屋にガス警報器が取り付けられている場合は常にコンセントを入れておいてください。また、**ガス警報器**が鳴りましたらガス漏れ箇所を確認の上、ただちに**換気**をして東邦ガス笠寺営業所(821-7141)にご連絡ください。

警報器はお部屋の設備となりますので、退居時はそのままにしておいてください。

■給湯器異常時の対処 ⚠️ 危険

- 機器及び配管からの水漏れまたはガスの臭気
- 運転中の機器からの異常音
- 機器の外観の異常

以上のような現象がある場合には、下記の異常時の処置を行い**JAみどり**(休日の場合は、**東邦ガス**)へすぐにご連絡ください。

<p>1 給湯栓をしめる。 (お湯の使用場所)</p> 	<p>3 電源プラグをコンセントからはずす。(機器付近)</p> 
<p>2 給湯栓、ガス栓をしめる。 (機器の下部)</p> <p>給水栓</p> <p>ガス栓</p> 	<p>4 処置完了後、すぐにJAみどり(休日の場合は名古屋給湯器サービス ☎625-5531)へご連絡ください。</p> 

< 給湯器の取り替え >

給湯器は、使用不能となったものから順次取り替えます。

※冬季には機器や給水・給湯配管が凍結し、破損する恐れがあります。

凍結予防のため、次のような処置をおとりください。

「機器本体の凍結予防」

- ・凍結予防ヒータを作動させるため、機器の電源プラグは抜かないでください。

「給水・給湯配管の凍結予防」

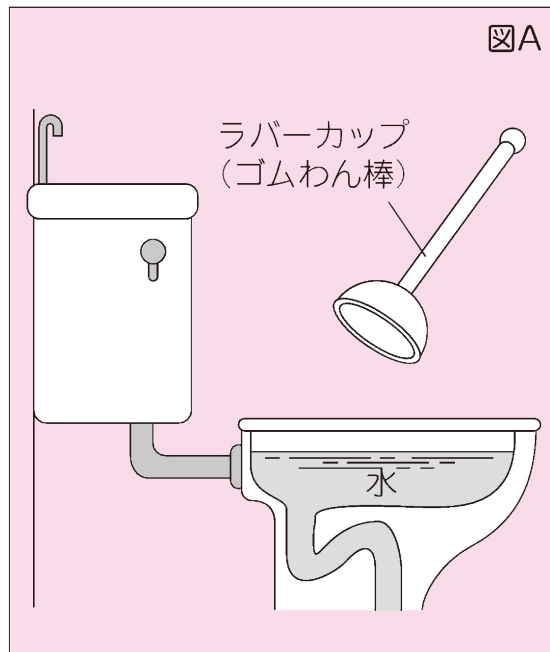
- ・ガス栓を閉め水栓を少し開き少量の水を流し続けてください。

- ・トイレが水洗式の場合は、トイレットペーパー以外のものは絶対に流さないでください。配水管がつまり、汚水が逆流して階下のトイレへふき出すこととなります。



■トイレのつまり処理 ⚠️(注意)

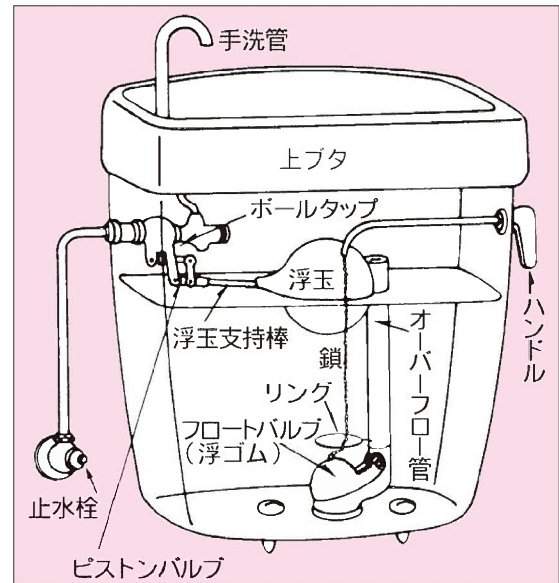
- 紙の使いすぎなどでおこる場合があります、何も異物を流していない場合には、ラバーカップ（図A参照）にて処理してください。業者に依頼しますと入居者さんのご負担になりますのでご承知ください。
- ウォッシュレットの取付をされる場合は、変更届によりJAみどりの許可をとってください。



■トイレタンクの構造

※該当しない住宅もあります。

タンクに給水されない場合は、止水栓がとめてある可能性があります。下記のように処置をお願いします。

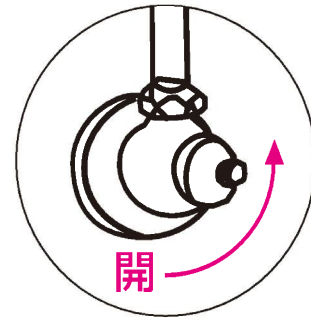


タンクに給水されない

- 止水栓がとめてある

〔修理法〕

水を出すためにはマイナスドライバーなどで止水栓を左に回してあげます。



タンクから水が流れ続ける

タンクから水が流れ続ける場合はタンク内の故障が考えられますので、JAみどり不動産部までご連絡ください。

またその際は止水栓を右に回すことで、タンク内への給水を止めることができます。

台所

■流しの排水について(ディスポーザー禁止) ⚠️(注意)

排水が詰ると最悪の場合、上からの水圧で排水が吹き上げる場合もあります。次のことを必ず守ってください。

- 1 ディスポーザー(排水口に取り付ける生ゴミ粉碎機)は使用しないでください。
- 2 トラップ(目皿、ゴミ受け)を時々掃除してください。菊割りゴム、ワゴン、ゴミ収納器本体の汚れと、ステンレスカゴの目づまりを取り除いた後、台所用洗剤でよく洗ってください。(機種によって多少違う場合があります。)



- 3 てんぷら油など、油脂類特にラーメンの残り汁は絶対に流さないでください。排水管の内部に油が付着して排水管が細くなり流れが悪くなるだけでなく、水質汚染の原因となります。残った使用できない食用油は、冷やしてからカンやビンなどにいれたり、市販の凝固剤を使って捨ててください。

■流し台の排水づまり修理法

パイプクリーナー(排水づまり修理用器具)を排水管の中に入れ、上下に動かしますと、詰まったゴミが押し流されます。また、台所排水づまり専用の洗浄剤を用いる方法もあります。



■ステンレス流し ⚠️(注意)

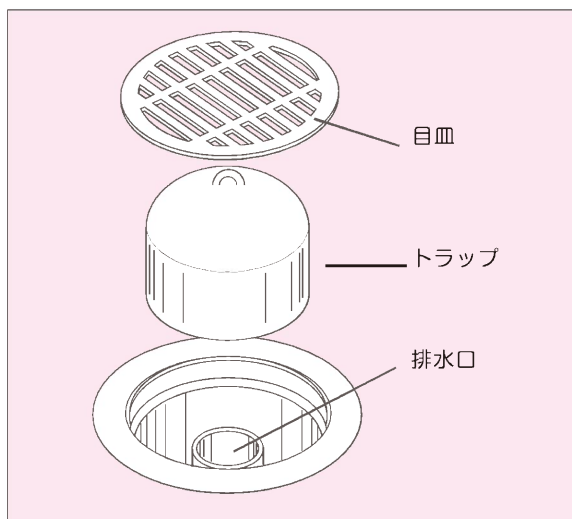
ステンレス流しでも、サビがでることがありますので、特にガスコンロの下は常に清潔にするように心がけてください。最初にガスコンロの下に敷き物をひくとより効果的です。尚、サビ・汚れなどがついていいますと、退居時に入居者さんのご負担で取り替えていただく場合があります。

浴室

■排水づまりの対処法

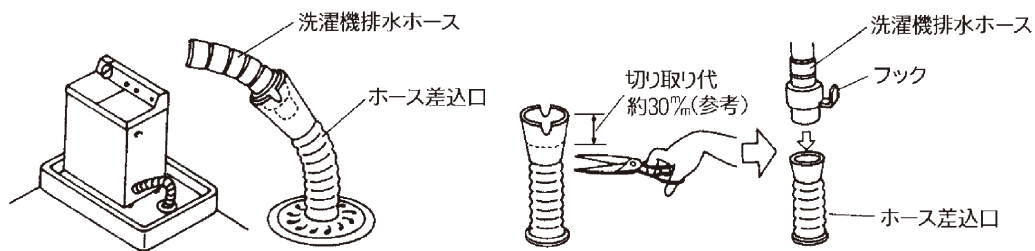
排水口、目皿およびトラップ部分に髪の毛やゴミが詰まるのが原因となることが多いです。定期的に目皿をとりはずし、トラップを上げて掃除しましょう。排水づまりを防ぐために、掃除のときに除去したゴミを排水口に捨てたり、目皿やトラップをはずしたままで湯水を流すことは避けましょう。水の流れが悪い場合もトラップを取りはずしたままの排水はしないでください。

排水口の構造(建物により異なる場合もあります)



洗濯機の給水ホースの取付け

●洗濯機のご使用 **留意** ※該当しない住宅もあります。



1 洗濯機の排水ホースは、洗濯機パンの目皿についているホースの差込口に、抜けないよう十分差し込んでテープなどで固定してください。

2 洗濯機の排水ホース先端に、吊下げ用のフックがついていて、十分差し込めない場合は、ホース差込口の先端をはさみで切り取ってから差し込んでください。但し、退居の際には原状にもどしていただきます。

※洗濯機パンの上にホースを置いたままですと、洗濯機の振動でホースが飛び出して、思わぬ漏水事故になります。排水金物は時々内部を清掃してください。糸くずなどがつまって、排水があふれることがあります。また、退居時にはゴムジョイントはつけたままにしておいてください。

洗濯機・乾燥機のご使用

全自動洗濯機の給水ホースは、**ウォーターハンマー現象**で抜けることがありますので、給水栓に強固に取り付けてください。ウォーターハンマー現象がひどい時には水道管が破裂することがありますのでその場合はご相談ください。洗剤を使いすぎると、排水口や排水柵から泡が吹き出て、他の入居者の方にもご迷惑をかけることになりかねませんのでご注意ください。

ウォーターハンマー現象…水道栓を急に止めたとき起こるもので、水道管をハンマーでたたいたような音が出ます。全自動洗濯機を使ったときに起こることがあります。



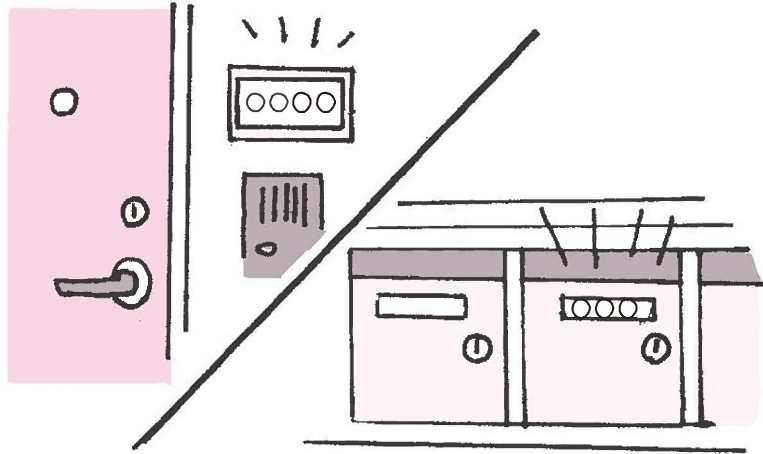
※住宅でこぼし水が一番多いのは洗濯室・洗面所まわりです。⚠️**注意**

床は防水処理がしてありませんから、上階で水をこぼすと下階へ漏ります。こぼさないように心がけましょう。階下へ損害を及ぼしたときは、水をこぼした方の責任により賠償していただくことになります。

玄関

■表札

玄関口に表示板がありますので、入居後に早めにお名前を表示ください。また集合郵便箱がある住宅は集合郵便箱にもお名前を表示ください。退居時には、お忘れなく取り外してください。

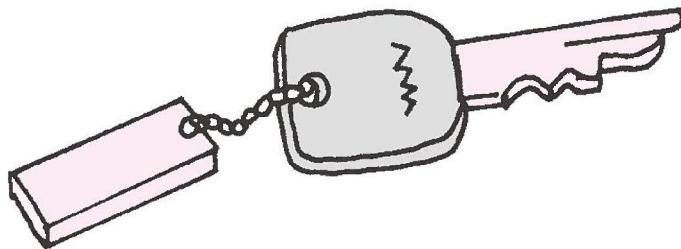


■カギ

退居の際はすべてのカギをJAみどりへお返しいただきます。

元キー1本でも紛失されたらスペアキーを作らず、家主さん、JAみどりに届け出てください。カギの取り替えをいたします。但し、その場合のカギの取り替え費用は、入居者さんのご負担となりますので、ご注意ください。

※ディンプルキーの性質上、鍵穴にほこりがたまってしまうと鍵が回りにくくなります。その際はディンプルキー専用の潤滑剤を鍵穴に差し込んでいただくことで改善されることがあります。



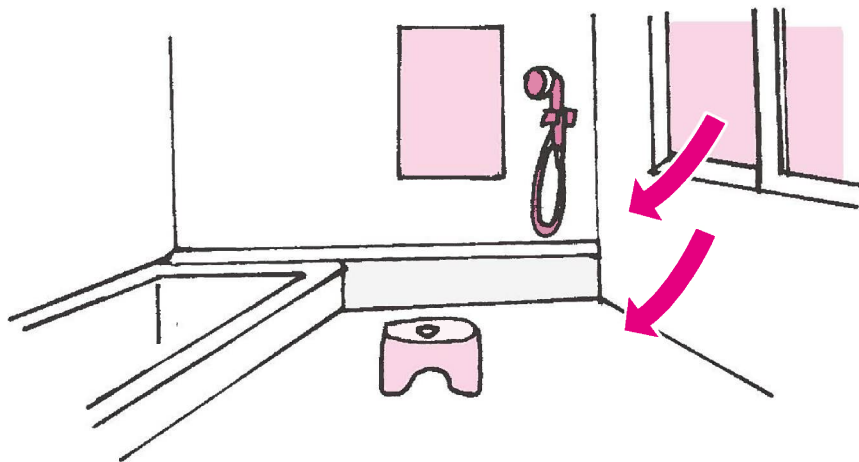
結露を防ぐために

特にマンションなどは気密性が高いため、湿気が高く、結露が生じがちです。結露は、押入れや壁面、浴室内にカビを生じさせたり、タンスの裏面を腐食させたり、壁紙がはがれたり浴室の木造部分の扉の立て付けが悪くなったり、時にはボードが浮いてきてしまったりと、お部屋や浴室の美観を損ねる大敵ともいえます。

こうしたトラブルを防ぐために**換気**が必要となります。

■浴室の換気

窓を開けたり、換気扇を回すように心掛けてください。また入浴後はすみやかに湯を落としてください。



■お部屋の換気

●通風と換気をよくすること

日頃晴天時にはできるだけ窓や換気口を開け、室内の通風をよくしましょう。お部屋に置かれた洗濯物から出る水分や、ガスストーブを使用するときには多量に発生する水蒸気にも要注意です。こうした湿気を追放するために、十分な換気、通風を心掛けてください。

●タンスは壁に密着させないで

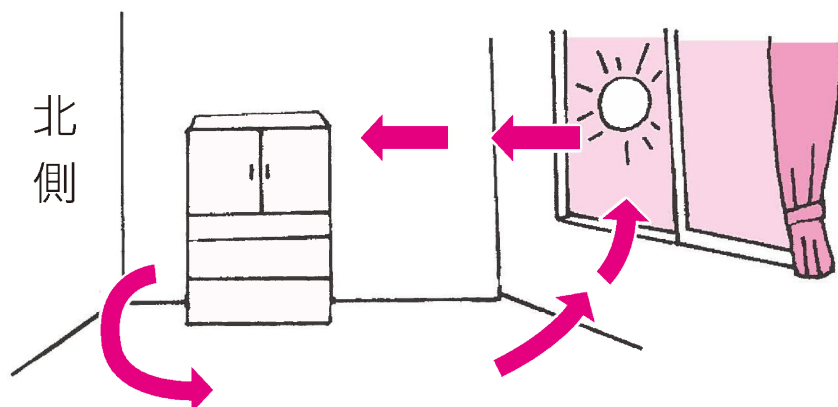
タンスや棚などの家具を置く場合、壁から4cm～5cmは離していただいで通風をよくしてください。

とくに北側の外壁に接した壁の前にタンスを置く時は、十分な注意が必要です。

●押入

収納物が詰まり、襖に仕切られた押入れは、湿気がこもりやすく空気の循環が悪いので、結露が発生しやすい場所です。

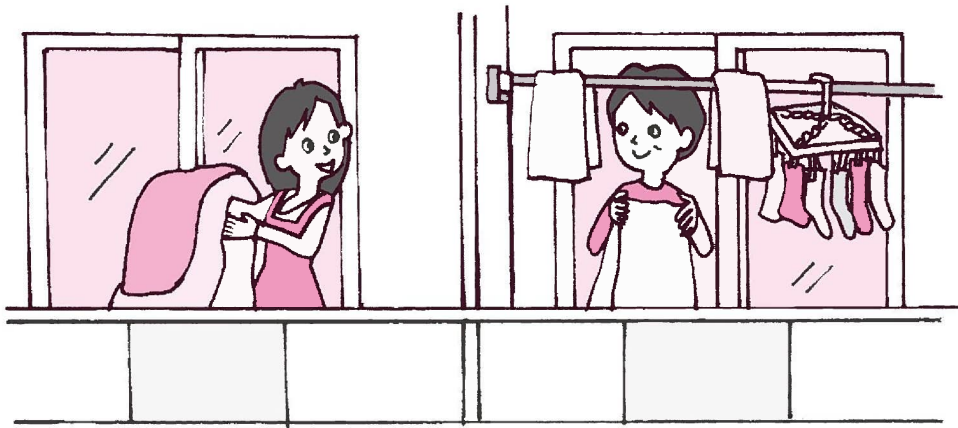
外壁に面した北側は、特にご注意ください。



床

床にはクッションフロアというビニール状のものが貼ってあります。(フローリングの場合もあります。)家具でキズつけたり、変色しないよう、物を置いたりされるときには十分に注意してください。家具の下に布製の家具敷などを使いますと痛みを防ぐことができます。また、退居時にキズ・変色などが出ていますと入居者さんのご負担にて全面張り替えとなりますのでご注意ください。特に、重いものを置く場合には一ヶ所に重心がかからないように、下敷板などを使ってクッションフロアのへこみを防いでください。

ベランダ・バルコニー



⚠(注意) ※該当しない住宅もあります。

- 干し物は手すりより外に突出させないでください。
- ベランダ・バルコニーに布団などを天日干しするときは、階下の方に迷惑にならないように心掛けてください。
- 植木鉢などは必ず受け皿を付けましょう。水をやる時も注意してください。
- 排水口にゴミがたまらないよう時々掃除をしてください。排水づまりがおきますと、ご自身のベランダ・バルコニーだけではなく隣室まで水びたしになってしまう場合があります。つまる原因となる糸くず、土砂、ゴミが流れないように、日頃から清掃を忘れないようこころがけましょう。掃除は、**水を使わずに掃き掃除**でお願いします。
- サッシ外側や手すりなどはホコリがたまると汚れやすく、サビの原因になるので時々かるく拭いてください。
- エアコン室外機の排水用ホースは、排水目皿に差し込むようにしてください。外れてしまいますと排水が階下へ流れてしまいます。
- エアコンの室外機を置く場合には直接置かず、敷板を敷いてその上に設置してください。
- 軽量鉄骨造のバルコニーには防水機能がありませんので、階下の方でご迷惑にならないよう水などを流さないようにしてください。
- ベランダでの喫煙について、タバコの煙や臭いが気になるという苦情をいただくことがあります。場所・風向きなどご配慮をお願いします。また、アパート敷地内の吸い殻のポイ捨ては絶対にお止めください。

